

平成 30 年度沖縄県若年性認知症支援推進事業
支援者研修会フォローアップ 事例検討会 報告書

事例検討会

目的：若年性認知症の一人ひとりの状態に応じた適切な支援ができるよう支援者を支援する。

具体的支援方法に対するディスカッションを通じて、病態の正しい理解促進、制度利用についての意見交換を行う。

1. 日時：2018年9月15日(土) 10時～12時 会場 新オレンジサポート室（宜野湾市普天間1-9-3）

2. 当日の様子

参加者数 3人（行政1名、包括1名、医療1名）

内容：参加者より事例持ち寄りはないということで、若年性認知症支援コーディネーターより事例提供し、ケースを通してディスカッションを行った。

事例内容：発症から経過長い、家族は相談窓口がわからず家族だけで抱えていた。一人で留守番ができないことで介護保険を申請し、サービス利用が検討されていたが、ご本人が高齢者のなかで過ごす事を嫌がり、サービスに繋がらず、居場所について相談のあったケースの紹介。地域の就労支援事業所で支えられていた。居住区は交通の不便さもあり、送迎は40分かかるといふ地域であった。そのような不便な地域では、本来は介護保険利用の状態の方であっても、障害福祉分野の事業所で認知症のかたを支えているなど柔軟に対応されている現状もある。今回のケースは、すでに症状は進行し、状態として介護保険事業所が適応という状況であったため、若年性認知症支援コーディネーターの立場で、抱えすぎている現状についてご家族・就労支援事業所へお伝えしつつ、利用出来るサービスについて地域包括や介護保険事業所の方々とともに情報収集し、介護保険中心のサービス利用に切り替えて頂いたケースであった。

ディスカッション内容：

（※若年性認知症支援コーディネーターのことをCNと以下表現しています）

・ケースを通して感じる家族の困りごと、ご本人の気付きはどうだったのだろう。

CNより：このケースに限らず、殆どの方が、自身の変化に気付き受診されています。このケースも自覚が有り受診されていたが、その受診先は一般内科や心療内科と複数箇所であった。初期のころ、本人も困っていたと思われた。そして家族も相談先がわからず困っていたようであるが、包括へ相談に行くということは考えていなかった様子であった。発症から約10年の経過であるが、地域の方々に支えられて、何とか生活されていた。経済的な支援から始まり、居場所を探すことなどケアマネと連携して行っていったケースでした。

参加者より：心理的教育的なところが大事。受診の際に検査でひっかからず何でもないと帰らせる際、本人としてはそうはいつでも生活の困り毎は変わらないのに、どうしたらよいかと迷われるケースもいるのではないかと。

CNより：最近のご自身の気付きも早いと、MCIよりもっと以前のSCIという状態で受診に繋げるケースもあります。その際には生活習慣病の予防などの指導を必ず行い、半年後に様子を窺えるつながりを必ず約束していたりします。

・このケースは介護度3と出ているが、病院のなかで申請すると生活の困り毎がみえないで、認定が低くでているようにも思える。入院されると専門職にささえられ、出来ないことが見えにくく、精神的に安定されるが、いざ自宅に帰ると不安だらけで、出来ないことはそのまま露になる。

CNより：若年性認知症のかたは体が元気なことで、本人やご家族がしっかりと認定調査の際に様子を伝えられないといけない。主治医への説明について、ご家族からしっかりと生活の様子お伝えし、主治医意見書を書いていただくよう、ご家族へ説明しています。

その他、幅広くデイスカッションを行う。

・車の運転についてどうしていますか。どのレベルから運転を止めるべきですか。

CNより：どのレベルということではなく、認知症と診断がついたときから免許の返納について、主治医は伝えられています。早くから、車の運転については話し合っ、出来るだけ早く、車を使用しない移動手段の検討、徒歩で通える地域での居場所づくりについて紹介していかなければならない。

参加者より：免許返納で上手くいったケースがいた。うまくいくコツがあるとそのとき感じた。

ひとつは家族がよく会議をして、特に子ども達の支えが大きかった。そして、徒歩で買い物や行き場所があった。買い物の宅配サービスを上手く使っていた。この3点がそろい、スムーズにいていたケースを経験した。上手くいったとはいえ、半年はかかっていましたが・・・。

CNより：CNではケースを通してよく公安の方に直接指導を受けています。主治医の先生で、「次の更新の時に考えましょう」とよくおっしゃいますが、若い方は、更新時に試験はないため、その点注意しなければならないです。

参加者より：免許を返納しても、公共バスが利用出来ない人も多い。バス停まで歩けない、バスの乗り方がわからない、乗り合いタクシーもすべて上手く行くわけでもなく地域によっては課題もあるなど、難しさを感じています。

CNより：県外では駅の近くのデイサービスや就労事業所は、人気が集まり登録者でいっぱいという話を聞きます。沖縄も早く交通手段が整備されるといいと、いつも思います。

3. 所感

昨年度の支援者研修会のアンケートで「是非、事例検討会を開催してほしい」というリクエストがあり、今年度フォローアップ研修として「事例検討会」を開催している。7月は台風で中止となり、8月は参加者がいなかったことで、今月9月は第1回の開催となった。地域の違う支援者同士、様々な意見交換が行え、大変有意義な検討会になってのではないかと感じた。

参加者のかたより、年間計画を見た際に、支援者研修内にフォローアップ研修という名称で表示されていたため、支援者研修会に参加したものが参加出来る会と思ったという意見があった。次年度は誤解のないように名称について「専門職相談会」と改めたいと思う。

次回：平成30年10月20日10時～12時

事例持ち寄りの無い場合には、若年性認知症支援コーディネーターより事例を提供し、ケースを通してデイスカッションを行います。お気軽にご参加下さい。（要申し込みです。お電話下さい。）

担当：新オレンジサポート室 中野（098-943-4085 または 080-6498-7367）

以上